

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200140		
法人名	株式会社 雄 清		
事業所名(ユニット名)	グループホーム なかはや		
所在地	和歌山県田辺市中芳養917-7		
自己評価作成日	平成26年4月11日	評価結果市町村受理日	平成26年6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成26年4月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族の負担を出来るだけ軽減し、家族と暮らしているようなアットホームな環境づくりを心掛けています。利用者様の精神力、体力が出来る限り維持できるよう職員が一体となってサポートし、元気で暮らしてほしいという願いを込めて関わっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、以前より地域の中で様々な役割りを担ってきており地域住民との良好な関係ができています。施設が開所され2年が経過しており、利用者是比较的軽度の方が多く、今後、重度化も予想されることもあり、施設の目標としている終末期ケアの取り組みも期待される。利用者の方々の多くは、周辺の地域の方で、『いつでも家族と一緒に暮らしている。』と思ってもらえるよう、施設の理念にも反映させて日々のケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事務所内に掲示し、実践できるよう努力している。	利用者が個人の尊厳を保持しつつ自立した生活を営む事ができるようにという旨の理念をつくり、月1回の全体会議や毎朝行っているミーティング、職員が参加する内部研修の中で理解を深め、共有し実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流は少ないが、近くの幼稚園児が訪問に来てくれたり、行事等があるときには地元の中学生がボランティアで手伝いに来てくれたりしている。	今年から地域の幼稚園の園児が事業所を訪問してくれるようになったり、行事のときには、地元の中学校に依頼すれば中学生がボランティアとして来てくれるようになったりと、地域との交流が深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方々には、周辺症状もあり入居者様が大きな声で呼んだり、外で過ごすことも多く、その都度話している。去年、地域の方を対象に認知症の勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催している。施設の現状、取組等を報告し、家族、地域の方、包括支援センターから意見を頂いている。意見は職員で話し合いを行っている。	2ヶ月に1回開催されており、老人クラブ会長、町内会長、田辺市地域包括支援センター職員、そして今年から民生委員の方も参加している。また、全ての家族に通知をして参加を促がしている。毎回の議題も工夫して活発な推進会議が開催できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的には行っていないが、運営推進会議に参加いただいている市の職員の方には報告、相談をして協力関係を築いている。	市の担当課の職員や地域包括支援センター職員には、運営推進会議に出席してもらったり、様々な相談や報告をして連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関を施錠している。日中は自由に出入りが出来るようにしている。身体拘束だけでなく、言葉による拘束も行わないように取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践に向け、積極的に研修に参加し、全ての職員に周知できるように伝達研修も行っている。具体的な取り組みとして、夜間以外は、玄関を開放し、利用者の行動を制限することなく見守りをする等、利用者個々の状況に応じた寄り添ったケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には研修などを行っている。虐待が無いように管理者が個人面談や話を聞いたりして、ストレスのたまらないように気をつけている。職員間でも言葉使い等は注意し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等を開催し、必要に応じて活用できるよう努める努力が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学をしてもらい、疑問、不安など丁寧に聞き取りをしている。納得いただき契約時には説明を十分に行い、同意をいただいた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日常の会話等から、意見、要望をいただいている。家族から面会時や運営推進会議で意見を頂き、職員で話し合っている。頂いた意見は、職員に報告して、改善要望等に応えられるようにしている。	利用者からは、日常の会話の中から意見や希望を聴き、ご家族からは、面会時に積極的にコミュニケーションを図り信頼関係が築けるよう努めている。嗜好品等の買い物依頼等はあるが特に運営に関する意見は出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議や、日頃から意見を聞いて反映させている。	月1回の全体会議で職員の意見を聞き、改善すべき事柄などあれば施設運営にも反映させている。事例として、今までは調理専門の職員を配置していたが、利用者の食事への楽しみを反映させるために職員が交代で調理をするに改められた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況の把握に努め、経験、能力、資格等を考慮して、賃金水準を下げないよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し、個々のスキルアップに努めている。各職員に合った研修に参加し、研修後は伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は少ないため、勉強会、研修等への参加などで、他の職員との交流が出来るよう努力が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には困っていること、要望など本人から話を聞いて安心できるよう声掛けをするよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを受けるまでの経緯や困っていること、不安な事など丁寧に聞き取りをして、安心していただけるようより良い信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時には、必要と思われる支援を提案し、他のサービスとの組み合わせなど選択肢を広げて、本人・家族に何が必要か対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一人一人に合わせた接し方を心掛け、出来ることを一緒に行うようにしている。家事など出来る範囲で一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状況を報告し、本人と家族の思いを大切にしながら、施設が支援できること、家族が出来ることを話して本人を支えて行けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や、美容院、行きつけの場所や本人の希望するところへ出かけられるよう支援を行っている。	地元のスーパーに食材の買出しや個々の嗜好品等の買い物に出かけている。また、いきつけの美容院や実家、お墓参り等利用者の意向に添って外出支援を行い、馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく過ごせるよう、利用者の気持ち、性格を考えて職員が関わり、孤立することのないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方はいませんが、骨折等で入院したときには、定期的に見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いが叶わないときもあるが、今までの暮らしを少しでも続けられるよう、本人の希望や一人一人のペースに合わせて支援を行っている。本人と話し合い、希望は普段の会話から聞き取るようにしている。	毎朝のミーティングやケース記録から利用者一人ひとりの思いの把握に努めている。また、利用者とゆっくりコミュニケーションを図り、何気ない普段の会話から生活の希望や思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報を収集してファイル化し、ケアマネージャーからの情報も合せて、職員全員で共有、把握するよう努めている。面会時にも追加で聞くようにして、本人の生活歴等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況の把握に努め、残存機能を活用しながら、出来ないときには一緒に行うようにしている。作業等をしたときには感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ミーティングを行い、利用者の状況を出し合っている。面会時には近況を報告し、家族の要望を聞くようにしている。状態が変わったときには家族に連絡し意見を反映させた介護計画を作成している。	本人の希望や意向を尊重し、関係者の意見等も取り入れ、十分に話し合いを重ねた上で介護計画を作成している。また、月1回のミーティングで一人ひとりの状況を確認し介護計画の見直し等を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個別記録に、かかわった職員が必ず記入し、職員がそれぞれ目を通し情報を共有し、実践、介護計画に活かす努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化や、その時のニーズに対応できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園児が慰問に来てくれたり、近くの神社のお祭りを見学に出かけたり、利用者様の状態に合わせ地域に参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医や希望の医療機関を受診している。家族以外に職員が同行することでかかりつけ医との関係を築いていけるように努めている。	協力医療機関による往診や、利用者及び家族の意向による以前からの主治医や医療機関への受診支援を行っている。医療機関までの送迎や院内の付き添いも職員が行い、主治医との円滑な連携がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に応じて施設内の看護師に助言をもらう。日常のかかわりの中で気づいたことや、気になる事は、受診の際に医師、看護師に状況を伝え、指示を仰ぐこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療が受けられるよう、ケアマネージャーが医療機関との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を、施設として早急に作成するようすすめている途中である。関係医療機関とも連携しながら、今後の対策が必要である。	重度化した場合や終末期のあり方について相談を受けた事は無いが、利用者も高齢となり徐々に身体機能が低下してきているため、事業所として早急に看取りについての方針を明らかにする必要があると認識している。	利用者や家族が安心して終末期を迎えられるように、事業所としての看取り等についての方針を明確にし、早い段階から利用者や家族と話し合いを行い、その意向が汲み取れるような取り組みや、研修等も含めた体制の整備に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導で、火災発生時の避難・消火訓練を実施している。地域の方にも運営会議等で意見を頂いて、具体的なマニュアル作りを早急に進める。	年2回、消防署の指導を受け、利用者も参加して避難訓練を実施している。また、実際に近くの高台に避難する訓練の必要性を感じており、以前作成したマニュアルを修正し、さらに具体的なマニュアル作りを進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格、性格を把握し、それぞれの個性を大切に対応している。その人らしさを意識し無理のない程度に役割をもってもらうことで自尊心を高めるよう努めている。	利用者の個性を大切にし、職員は利用者様の人格を尊重した言葉使いや対応ができるよう努めている。また、個人情報として取り扱うべき利用者の個別の情報は、事務室で大切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話から、今したいと思うこと、希望を読みとり、出来るだけ自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体を意識し出来る限り希望に沿えるように努めている。また、その人に見合った活動を支援しその人らしさが引き出せるよう意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常、外出時にもその人に合った身だしなみを心掛けている。定期的ではないが、散髪(美容院)に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状況を見ながら、職員と利用者様と一緒に準備することがある。盛り付けや食後の食器洗いをしてもらう。	今年から職員が食事のメニュー作りから調理まで担当することになり、利用者の方と一緒に買い物に出かけたり、利用者の個々の出来ることを把握して参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた献立を考え、食事量・水分量はチェックし、少なければこまめに摂取してもらうよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人は、自分で歯磨きをしている。出来ない人は、職員が行う。状態に応じて口腔ケアの声掛けをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	上手いかず苦戦することもあるが、日常の排泄をチェックし、パターンをつかんで、声掛け、トイレ誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るように対応している。オムツをされている利用者は少しでも自立に向け、以外の方は状態が低下しないよう少しでも長く現状維持できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックをし、便秘気味の人には水分を多く摂取して頂く。朝食時には、バナナヨーグルトを提供し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やその時の状態を確認し、時間帯など出来るだけ希望に合わせて入浴を支援している。	利用者一人ひとりの意向や習慣、希望する時間帯を把握しているが、その日の体調や意向を尊重し臨機応変に対応している。夕方や夜間に入浴される方もおり、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活のリズムを尊重し、状況に応じて睡眠、休息をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全て理解しているとは言えないが、薬の説明書をカルテに保存し、何時でも確認できるようにしている。誤薬を防ぐためのチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能、特技や趣味を活かした役割、楽しみ事の支援をすることで、充実した生活を送れるよう努力しているが、時間的な余裕がなく、深く取り組めない場合もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ本人の希望に沿って、買い物や散歩など積極的に支援を行っている。	事業所周辺には梅畑等があり、農道が散歩コースになっていて、日常的に外出する機会がある。また、玄関前で日向ぼっこをする利用者もいるなど、利用者の身体状態や意向に沿った外出の支援が行われている。また、車両を使ってお花見等の遠足も定期的実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人には、自分で所持し、買い物や、受診の際の支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分の携帯電話を所持したり、必要な場合は、事務所の電話を使うこともできる。個人でハガキを書いたり、家族あてに年賀状を書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を心掛け、安全に過ごせるよう配慮している。季節感を感じられる工夫が少ない。	玄関は明るく、小休止するための長椅子が置かれていたり、出入りをし易くする工夫がなされている。居間も明るく清潔で、騒音も無く落ち着いた雰囲気、カウンター越しに食事を用意している音や香りがする等、生活感を味わう事ができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースのため、ソファ等を置くスペースはないが、椅子を移動し、好きな場所で過ごせるようにして頂く。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていた馴染の物を持ち込んでいただき、環境整備、安全に配慮した居室づくりを心掛けている。	備え付けの家具も用意されているが、利用者は自宅からも使い慣れた椅子等を持ち込んで設置したり、家族の写真などを飾り居心地よく過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印になるものや、張り紙等をしてわかるように工夫したり、繰り返し伝えることで出来るように支援している。		